

NPO法人北海道歩くスキー協会

令和6年度前期・後期

令和6年6月16日～令和7年5月18日予定



《令和6年度環境保護講座》

- 1、日時 : **令和6年12月7日** (日) 午前10時～12時
- 2、場所 : 市民活動プラザ星園2階 会議室
- 3、参加人員: **17名**
- 4、タイトル・講師:

【北海道では自然エネルギーをこう利用しよう】

講師: 所属: 北海道大学大学院工学研究院助教

NPO法人北海道地域・自治体間問題研究所副理事長

札幌市環境保全アドバイザー

山形定 先生

5、内容:

- 当協会池内事務局長から山形先生の紹介後、配布された資料に基づきスライドを使用した詳しい説明がありました。世界規模で気候変動が大きな問題となっている今、**冬のスポーツを楽しむ我々には、雪は貴重な資源**である。北海道の日本海側では、年最深積雪(最も多く積もった雪の深さ)が減少傾向にあるとの観測データもあり、より一層の温室効果ガス削減策を個々人でも考えていかなければならない問題と思います。

●今回の講座では、自然エネルギー活用を地域主体で・道内の自然エネルギー活用の事例・原子力発電の問題点の3項目を取り上げて説明していただきました。

① 自然エネルギー活用を地域主体で(今年の復習)

- ・地球温暖化は、健康被害(熱中症など)、激甚気象(高温、豪雨…)、一次産業影響(農作物の高温障害、水産物の水揚量減、魚種転換、赤潮発生…)などをもたらしている。
- ・化石燃料削減のために自然エネルギー開発が進められていますが、地域住民の反対もあり「地域の、地域による、地域のための」開発が必要である。

②地球のしくみと道内の自然エネルギー活用

- ・自然エネルギー、再生可能エネルギーなどと呼ばれるものは、基本的に太陽光エネルギーを直接・間接的に利用するものです。
- ・直接的に利用するものには、太陽熱温水器や太陽光発電パネルがあり、間接的に利用するものには、広い意味では水力発電・植物系バイオマス・廃棄物系バイオマスのほか雪や氷の利用も含まれます。
- ・広大な土地と一次産業が盛んな北海道では、様々な自然エネルギーや再生可能エネルギーの利用に各自体を含め取り組んでいます。

・主な事例としては

- * 小水力発電所(渡島管内八雲町熊石地区)
- * 木質バイオマスボイラー施設(上川管内下川町)
- * 農作物残渣の燃料利用(上川管内東川町)
- * 小麦くずの燃料利用(十勝管内幕別町)
- * 有機系廃棄物(ふん尿)のガスプラント(十勝管内清水町)
- * 雪氷の農作物貯蔵への利用(空知管内沼田町)
- * 除雪した雪を堆雪場で夏まで保管しコンピューターの冷却に利用(美唄市)
- * 太陽光発電を設置し電力供給契約を締結、電気自動車も充電(後志管内余市町)

③原子力発電の問題点

- ・原子力発電は事故の可能性が皆無ではないこと、又、放射性廃棄物の発生は不可避である。
- ・東日本大震災での福島第一原発の事故によりまき散らされた放射性物質の影響で未だに多くの人の帰還を拒んでいます。原発から出る放射性廃棄物は、原発を稼働すれば避けられないものであり、将来世代に押し付けてしまう負の遺産であるが、現在のところ処理及び処分方法は確立されていない。

・道内では、寿都町や神恵内村において高レベル放射性廃棄物の最終処分場選定に向け、原子力発電環境整備機構(NUMO)が第一段階として文献調査を実施した報告書が北海道を含めた関連自治体に提出されました。今後は第2段階の概要調査移行が焦点となるが、鈴木道知事は反対を表明しており、今後の先行きが注目されています。

・福島第一原発事故の反省を踏まえ従来の安全基準を強化した新たな規制基準が施行され、順次、九州電力川内原発から新基準に適合していると判断され、現在13発電所が再稼働しています(定期検査中を含む)

しかし、再生可能エネルギーが拡大するなか、原発再稼働で余剰電力(発電量が需要量を上回る)が発生し、出力抑制が新たな問題となっています。

● まとめ

・人類は化石燃料に依存する社会から脱却する時を迎え、太陽光由来の自然エネルギーを最大限活用する必要がある。

・北海道には多様な自然エネルギー資源があります。各地で地域主導の自然エネルギー利用を一層促進することが求められます。

- ・「発電時に二酸化炭素を出さない」「電気料金が安くなる」と原発再稼働が進められていますが、**原発が動くと自然エネルギー電力は止められることとなります。**
- ・万年単位で将来世代に核のゴミを押し付ける原発は持続可能な発電ではありません。
北海道で食もエネルギーも自給する新しいライフスタイルを発信しましょう。



原子力による発電



自然エネルギーによる発電



受付係……募集定員20名に対して参加者17名……



環境保護講座

【北海道では自然エネルギーをどう利用しよう】



講師：挨拶する山形定先生と司会池内事務局長

下川町の木質バイオマスのお話等...

道内木質バイオマスの先進地（下川町）
公共施設導入済木質バイオマスボイラー施設

- ・町内・外から調達した木材を乾燥後、チップパーで破碎、篩い分けして燃料化。
- ・屋根付き施設内に保管し、町内の各施設へ。



化石燃料の森林バイオマス
転換で、燃料費節約年間約
1,900万円（公共施設全体
で2014年度）



バイオマス
エネルギーの
活用が
環境にやさしい



自然エネルギー活用を地域主体で・・・地球のしくみと道内の自然エネルギー活用等
・・・分かりやすく教えて頂きました・・・



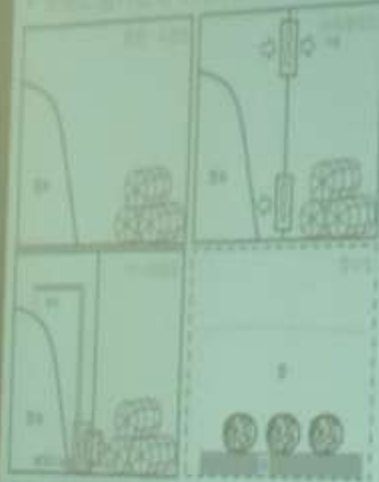
真剣に聞き入る参加者①



スライドで説明する山形先生と聴講者 ②

冬の寒さを利用

- ・雪の融けを利用して、雪の氷を蓄積して、夏などにその「冷たさ」を利用
- ・地中貯蔵などの利用もあるが、伝統的に多いのは農作物などの貯蔵
- ・雪の氷を貯蔵して、夏に利用するが、冬に使うかという点で様々な方法
- ・実際に、雪の氷を貯蔵している。



冬季の冷涼な環境を活用し、沼田町等で農作物の鮮度を保つための工夫がされています。
・
室貯蔵・伝統的な氷室を使用して農作物を保存する方法・氷の冷気で自然に保存できるため、エネルギーの節約にもなります。

少しずつ..理解出来ました..



原発の問題点 事故の可能性、不可避の「放射性廃棄物」

- 2011年3月の東日本大震災で未だに多くの人々の帰還を阻んでいるのが、東京電力福島第一原発から広範囲にまき散らされた放射性物質です。
- この放射性物質の生成は、原発を稼働すれば避けられないもので、現代人が使う電力の代わりに将来世代に押し付けてしまう負の遺産です。



(高月紘、「廃棄物」、「絵コロジ」より)

原発の問題点 事故の可能性、不可避の「放射性廃棄物」

- 2011年3月の東日本大震災で未だに多くの人々の帰還を阻んでいるのが、東京電力福島第一原発から広範囲にまき散らされた放射性物質です。
- この放射性物質の生成は、原発を稼働すれば避けられないもので、現代人が使う電力の代わりに将来世代に押し付けてしまう負の遺産です。



原子力発電所にはいくつもの問題点があります：特に放射性廃棄物の管理と事故のリスクが大きな懸念事項です

原発が動くと自然エネ電力は止められる

経済産業省 の説明

再生可能エネルギーの出力制御の抑制に向けた取組等について

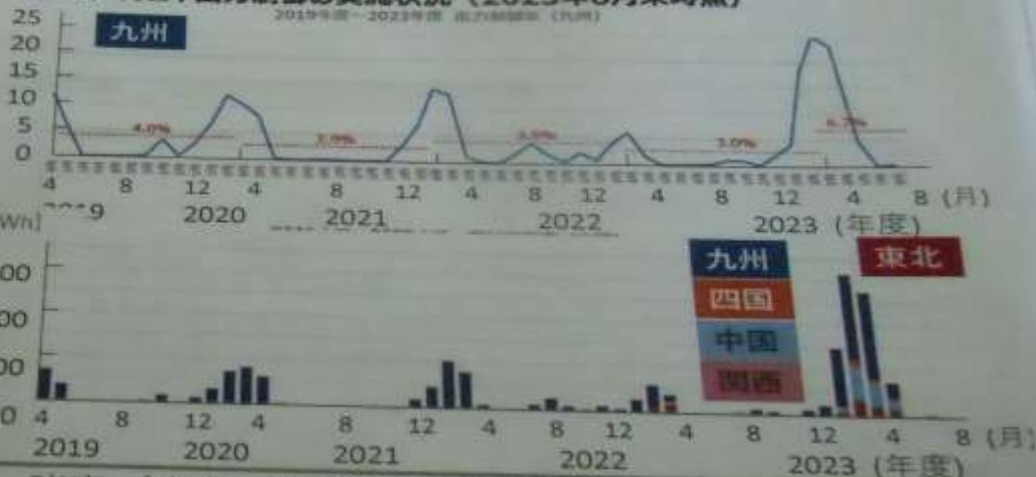
2023年10月16日

資源エネルギー庁

「再エネの導入拡大とともに出力制御が全国に拡大」

とするが、異なる見解も出されています。

(参考) 再エネ出力制御の実施状況 (2023年8月末時点)



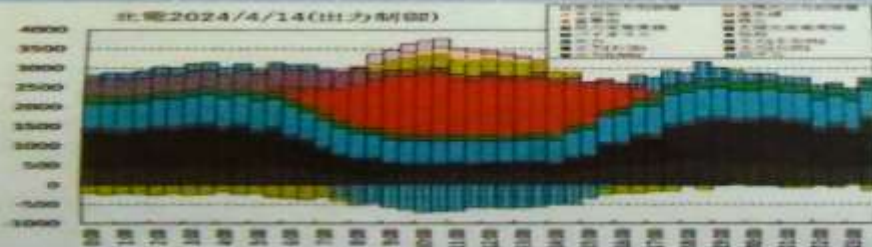
前川 (株)東洋生興)、諸富 (京大・経済)、2023.10.26
 「再エネの大量導入は原発とバッティングするのか?—再エネ出力制御の要因分析とその解決法—」

- 2023年関電エリアの**原発発電量の急増**で3エリア間の連系線潮流減
- 四電や中電は再エネ発電量増の余剰電力を関電送電できず**抑制強化**

電力が余る時代 北電の出力制御実績

- 北電の自然エネルギー電力抑制 (出力制御) 実績は多くはないが、いつどのようになされるかについては注視し続けることが必要。

日時	2022					2023		2024	
	5/8	5/15	8/21	9/11	9/25	10/8	10/13	4/14	5/5
最大余剰時刻	12:30-14:00	12:00-14:00	9:37-12:01	9:30-11:25	8:00-16:00	9:54-11:57	9:27-13:42	8:30-14:00	8:00-14:00
制御量[万kW]	19	20	13	11	13	12	13	40	31



- 2024/4/14の出力制御
- 連系線受電で出力制御
- 太陽光5.6%、風力12.8%の電力停止

原発が動くと自然エネルギーが止められる



原発の説明を聴いて

経済的な理由・・・原子力発電所の建設や運転には多額の投資が必要で・・・そのため、運転を開始した後は、できるだけ多くの電力を発電してコストを回収しようとしています。その結果、コストの低い再生可能エネルギーの導入が後回しにされること等・・・理解出来ました

質問する参加者



質問する参加者・分かりやすく説明する山形先生

質問に聞き入る山形先生



分かりやすく説明する...



最後に山形先生に感謝の気持ちを含めて拍手をもって定刻に終了致しました

NPO法人北海道歩くスキー協会 「創立50周年記念祝賀会」

1、日時：令和6年11月30日(土) 12:20～14:20

* 11:20～受付開始

* 11:50～記念写真撮影

* 12:20～記念祝賀会、表彰状・感謝状、

アトラクション(江差追分・スライドショー)

* 14:20～祝賀会終了

2、場所：ホテルポールスター札幌

3、参加人員：35名

4、内容：

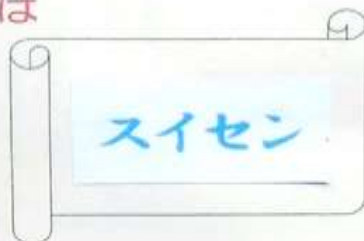
- **10:00～実行委員のメンバーが集合・・・ホテルと打ち合わせ**
記念誌・記念品・会場等再チェックして受付11時20分開始致しました。
- **記念写真撮影後12:20～記念祝賀会**では、最初に丸山理事長
ご挨拶で50年の歴史の推移・体験したエピソード等分かりやすい
貴重なお話もありました。
その後、会員への表彰状・感謝状贈呈表彰が行われました。
- **懇親会**では、受賞者の代表者に**テーブルスピーチ**を頂きました。
江差追分の尺八の深く響く音色・三味線の哀愁たどるような音色を聞きながら
美味しいビールや食事を楽しみ、**スライドショー**では、美しい雪景色の中で
歩くスキーを楽しむ参加者のスライド等見て **各テーブルでは**
当時の大会や楽しかった思い出で盛り上がり、色々と話がはずん
でいました。
- 令和7年2月24日(月・祝)に50周年記念道民・札幌市民
歩くスキーの集い兼CX記録会を実施しますので多数の方の
参加をお願い致します



会場・受付係・・・準備するスタッフ

創立50周年記念祝賀会

お席は



日時：令和6年11月30日(土曜日)

場所：ホテル ポールスター札幌

祝賀会次第

- | | |
|------------------|-----------|
| 1、開会の言葉 | 司会者 森 眞 枝 |
| 2、理事長挨拶 | 丸 山 光 徳 |
| 3、表彰状・感謝状贈呈 | |
| 4、祝 杯 | 芳 賀 孝 郎 |
| 5、祝 宴 | |
| アトラクション① 江差追分披露 | |
| 第58回江差追分全国大会優勝者 | 林 久美子 様 |
| ※ 表彰受賞者コメント | 浜 島 泉 |
| アトラクション② スライドショー | |
| 広報部長 中村 進 | |
| ※ 感謝状受賞者代表コメント | 佐々木 年昭 |
| 6、締め乾杯 | 田 原 啓 一 |

創立50周年記念祝賀会。パンフレットと祝賀会次第(左)



受付を終えロビーで
パンフレット見ながら・
集合記念写真撮影を待つ

NPPO法人北海道歩くスキー協会 創立50周年記念祝賀会



写真撮影

令和6年11月30日 北海道歩くスキー協会創立50周年記念
於 ホテルポールスター札幌



懇親会場・・・各テーブルに着席



12:20～丸山会長挨拶で祝賀会開始



*表彰状受賞者
*感謝状受賞者

浜島 泉 一名
中村進
山本敏
池内勝治
竹田弘
豊吉孝
清野守
佐々木年昭
丸山光徳 八名

各受賞者への贈呈されました

祝杯・乾杯する芳賀孝郎顧問





懐かしい人にもお会いして・・・乾杯

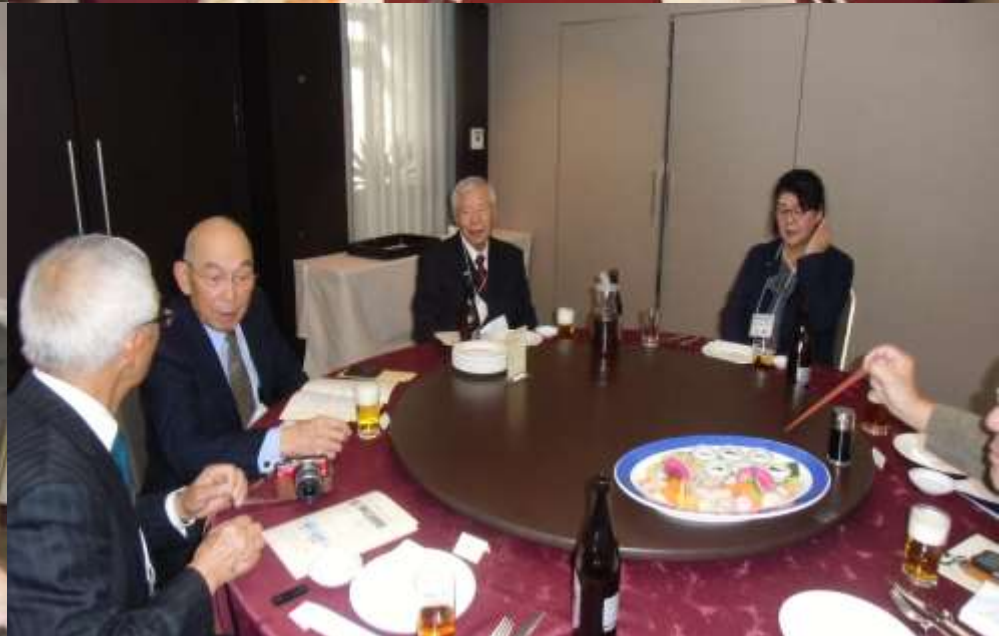




各テーブルも盛り上がってます・・・



令和4年第58回江差追分全国大会優勝者・・林久美子様一行が開演



江差追分の尺八の深く響く音色・三味線の哀愁ただよう音色を聞きながら・・・



江差追分は、聴く人の心に深く響きます・・・お酒も増します・・・



宴たけなわ・・・各テーブル



表彰状受賞者コメント 浜島泉顧問(上) 感謝状受賞者コメント 佐々木年昭さん(下)



40周年以降のイベント実施スライドショー・・・中村進広報部長



美しい雪景色の中で歩くスキーを楽しむスライド見て 各テーブルでは
当時の大会・・・楽しかった思い出で盛り上がっていました



限られた時間の中で全ての
イベント出来ませんでしたが
懐かしい大会もありました





締め
の乾杯
田原啓一顧問

記念品・記念誌・記念集合写真
受け取り後解散



北海道歩くスキー協会

創立 50 周年

記念誌



特定非営利活動法人

北海道歩くスキー協会

作成された記念誌

【ホームページ・祝賀会でスライド

作成して感じた事・・・】

50年もの間、歩くスキーの楽しさと素晴らしさを広めてくださり、本当にありがとうございました。

皆様のご尽力と情熱のおかげで、多くの人々が冬の自然を楽しみ、健康を保つことができました。また、数多くの素晴らしい思い出が生まれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。高齢化で今年度で解散となり来年5月18日塩谷丸山登山が最後になりますが、協会の歴史とその貢献は、私たちの心に永遠に残ることでしょう。これからも皆様の健康と幸せを心よりお祈りいたします。

本日はご参加有難うございました。

広報部長

中村 進

佐々木和男

葛西直登